(第3種郵便物認可)　〔購読料金(前納)1カ月10,000円+消費税〕

日刊 産業新聞
Japan Metal Bulletin

2020年(令和2年) 6月22日(月)
第19979号
Since 1936

いつでもどこでも
日刊産業新聞DIGITAL
PC・スマホ・タブレットで産業新聞まるごと読める
まずは2週間の無料試読から
https://www.japanmetal.com/pre-order

国内支社局網

中部支社	名古屋市中区上前津1−4−12	TEL 052(331)3371
中国支社	広島市南区大須賀町14−12	TEL 082(263)5523
北海道支局	札幌市北区北七条西4−8−3	TEL 011(756)1321
福岡支局	福岡市博多区博多駅前3−23−22	TEL 092(472)3887
東北支局	仙台市青葉区大町1−1−8	TEL 022(223)9032
北信越支局	新潟市中央区万代4−2−23	TEL 025(244)7600

高Ni系・チタン・ハイス・特殊金属全般
ステンレスシームレスパイプ
日清特殊金属株式会社
〒676−0008 兵庫県高砂市荒井町新浜2丁目9−36
TEL.079-444-0804 FAX.079-444-0806
http://www.nisshintokusyu.co.jp

特金スクラップ

品枯れと荷余り交錯

高品位ニッケル系枯渇

特金スクラップの国内市場で品枯れと荷余りが交錯している。新型コロナウイルスの影響で、ニッケル系の高品位スクラップは工場発生が大きく落ち込んでいる上に、移動制限で新規案件のスポット契約が成立せず、輸入による補充もできないために枯渇。一方で低品位スクラップは買い手薄で、スーパーアロイ(高強度耐熱合金)やチタンには余剰感が生じるなど、品種間で需給バランスの差が広がってきた。

航空機分野は買い手薄

ステンレスや特殊鋼の安価原料として添加されるニッケル系スクラップは、新型コロナウイルス感染症が拡大していた3月半ばから、自動車・電機関連工場の操業低下や休業に伴って国内発生量が急減。さらに出張禁止や在宅勤務で人の移動が制限され、目視で行うスクラップ評価ができないという理由で新規案件の成約も止まっている。

新切れやリードフレーム派生の42アロイなど純物が少ないニッケル系スクラップは、需要家であるステンレスメーカーにとっては配合がしやすい良質のリサイクル原料であり、減産下でも一定量の需要がある。しかし今回は発生量が落ち込んでいる上に、国内の発生不足を補う海外からのスクラップ輸入も全面的にストップしており、荷繰りは厳しさを増しているようだ。

また、スクラップ取引価格の指標となるロンドン金属取引所(LME)のニッケル相場は緩やかに回復している。市中相場は7月以降にも先高観があり、足元はトン1万3000ドルへと上値をうかがう動きもあるため、市場心理にも売り惜しみムードが漂う。市中扱い筋によれば「良い品物は売り手市場になっている」(特金原料問屋)という。

一方、ニッケル分の少ない耐熱鋼や、コバルト分を含む電池スクラップなどの低品位スクラップは、依然として買い手薄が続いている。これらの雑スクラップは海外に輸出されることもあったが、新型コロナで国内での滞留を強いられている。国内需要家の一部事業所がスクラップ原料の仕入れ規格を厳しくしていることも、荷余りの原因だ。

ウイルス禍で急速に冷え込んでいるのが、スーパーアロイやチタン。これらは航空機エンジンのタービン部材などに再溶解されるが、旅客数の激減とともに航空機の生産機数が減少するとの見込みから、市場の先行き見通しが悪化している。

そのため、思惑による市中問屋の仕入れは完全に止まり「本来は人気のスーパーアロイが行き場を失っている」(別の特金原料問屋)状態だという。

チタン合金スクラップに関しては、2013−14年に海外航空機メーカーによるリターン制度が構築され、国内重工メーカーなどで発生するスクラップが材料支給元である海外チタンメーカーへ全量返却される仕組みが整っていた。しかし、今後はその商流が安定して継続するかが不透明な情勢であり、国内に滞留すればさらなる荷余りも予想される。

国内発生が落ち込む42アロイ

アルミ缶リサイクル

19年度 過去10年で最高97.9%

20年需要量は横ばい

アルミ缶リサイクル協会は19日、2019年度の飲料用アルミ缶リサイクル率(再生利用率)が、前年度比4・3ポイント増の97・9%と、過去10年間で最高水準だったと発表した。国内アルミ缶消費量や再生利用量が減少した一方、これまで未把握だった使用済みアルミ缶(UBC)の多くが輸出増という形で現れたことなどが寄与した。20年の国内飲料用アルミ缶需要量は、前年よりほぼ横ばいの217億7000万缶を予測している。

UBCの回収が堅調に推移し、協会目標である「安定的に90%以上のリサイクル率を維持する」を5年連続で上回った。97・9%の高いリサイクル率となったのは、輸出の急増が影響している。輸出量は8万6855トンと、前年より1万6657トン増えた。一方で、消費量が2462トン減の33万418トン、再生利用量は2500トン減の23万6745トンと、ともに減少した。

国内で消費されたアルミ缶のうち、国内で再生利用されたUBCの割合は、前年度比0・7ポイント減の71・7%だった。アルミ缶材に再利用された割合を示すCAN to CAN率は4・5ポイント減の66・9%と、3年ぶりの低水準だった。

国内飲料用アルミ缶需要量の20年予測では、国産缶の出荷量は前年より横ばいの214億缶との見通し。アルミ缶の需要を支えてきたビール向けは、3・4%減の91億缶にとどまるそうだ。レディ・トゥ・ドリンク(RTD)などその他アルコール向けは47億缶と、6・8%増を見込む。非アルコール向けは、0・4%増の76億缶ではほぼ横ばい。

19年の国内飲料用アルミ缶需要量見込みは、対前年比0・3%増の217億3000万缶とみられる。アルコール向けでは、ビール向けは0・8%減の94億2000万缶、その他アルコール向けは11・7%増の44億缶との見通し。非アルコール向けは、3・2%減の75億7000万缶を予測する。

新会長に聞く

Interview

全国の非鉄スクラップ業者が加盟する非鉄金属リサイクル全国連合会。1958年に任意団体として発足し、東京・神奈川・東海・北陸・関西の5地区の地方組合が加盟し、60年以上にわたり非鉄スクラップ業界の発展と向上に貢献してきた。このほど役員改選(1期2年)され、新会長に橋本健一郎氏(橋本アルミ取締役・関西非鉄リサイクル協同組合理事長)が就任した。同氏に抱負や足元のスクラップ動向、今後の展開など聞いた。

感染症対策、追加で必要

非鉄金属リサイクル全国連合会
橋本 健一郎氏

▽橋本健一郎(はしもとけんいちろう)氏=1990年橋本アルミ入社。現取締役。関西非鉄リサイクル協同組合(前大阪非鉄金属商工協同組合)青年部長を経て、18年に同組合の創設以来、最年少で理事長に就任。現在2期目。趣味はボディビル。6年前に始め、今は週3回でジムトレーニングに励んでおり、ベストボディージャパン世界大会マスターズでチャンピオンの実績を持つ。1969年12月25日生まれ、兵庫県出身。

――まずは就任の抱負を。

「当会に参加することで、自分自身や会社、組合、社会の未来ために尽くすことにつながるという点を強調し推進したい。昨今は、新型コロナウイルスにより世の中は大きく変わろうとしている。リーマン・ショックはいわば人災だったが、今回の新型コロナは天災のようなもので比較できず、今後の動向も全く予想がつかない。アフターコロナ・ウィズコロナなどいろんなことが言われているが、ポイントは1つ。不要な行動を避け、デジタル通信化できるものは取り入れるという点に尽きる。組合活動も、これに沿って活動することで危機を乗り越え、進化できる。同時に、前会長のスローガン『新会楽』で言われたように、人は他人とのコミュニケーションを通じて喜び、楽しみ、生きていくエネルギーを培っていく点も重視すべき。つまり、単なるデジタルツールによる情報のやりとりだけでは、人も当会の仕事も進化しない。この相反するテーマにどう対応していくか。この答えのないテーマに試行錯誤しながら立ち向かっていかなければならない。今後、理事会や総会、懇親会などの組合活動もどのような形式で行っていくべきか、皆さん知恵を借りながら一緒に考えていきたい」。

――連合会の活動内容と取り組みを。

「定期的な活動としては、定時総会の開催や非鉄金属スクラップの流通量調査などを行っている。また、六車前会長から始まったリサイクル環境対策委員会が、月間WEBレポート『晴耕雨読@R』を発行しており、『新会楽TV』という動画を定期発信するなどSNS時代に沿った活動を展開している。青年部は環境省や経済産業省と連携して情報共有し、新たなビジネスにつなげていきたい」。

――スクラップを取り巻く環境について。

「新型コロナ第2波の可能性もあるが、感染拡大のピークは過ぎており、ようやく実体経済の回復に目が向けられている。観光や飲食業界の危機が騒がれているが、5月から業界各社の決算や各種統計がそろい、一部では売上高が40%減とリーマン・ショック並み、もしくは同等の悪化がみられる。経済的には、これからが危機で正念場と考えていい。一方でスクラップは、最大の輸出先である中国の経済低迷に底打ち感が出ており、景気対策の効果やアフターコロナで自動車や建設、半導体などで新たな需要が出ているため、スクラップの荷余りや続落といった一辺倒の展開にはならないだろう」。

――スクラップ業界の予想図を。

「新型コロナによる経験から世の中は大きく変わり、リサイクル産業の将来も大きく変わる。具体的には、これまでの仕事プラス感染対策が必要になってくる。従来は、環境対策や労働環境対策などが取り組むべき課題だったが、これからは感染症対策も追加で必要になってくる。従業員の体温チェックや、うがい手洗いの徹底、現場でのマスクの着用など今一度専門家の意見も取り入れながら、当会としての指針やマニュアル作りも必要になってくる。このような対策をした上で国内販売だけでなく、輸出ニーズへの対応や品位の格上げなども要求され、業界としては厳しい世の中になるが、前向きに捉えて次世代への安心安全のために取り組んでいきたい」

(石橋 栄作)

日刊産業新聞 20.6.22

西豪ニッケル資産買収

BHP、ノリルスクから

豪資源大手BHPは19日、露ノリルスク・ニッケルから豪州西部のニッケル資産を買収すると発表した。買収額は非公表。BHPは西オーストラリア州でニッケル・ウェスト部門を操業しており、電池向けニッケルの未開発資源を追加獲得する。ノリルスクは豪州から撤退し、ロシアの主力資産に集中する。

買収するのは、未開発のグリーンフィールド案件であるハネムーンウェルと、2つの探鉱案件、アルビオン・ダウンズ・ノースとジェリチョ。アルビオン・ダウンズ・ノースとジェリチョは現在、BHPとノリルスクが折半出資で運営し、BHPがノリルスクの権益50%を譲り受ける。

いずれの資産も西オーストラリア州のゴールドフィールズ北部に位置する。ニッケル・ウェスト部門のマウント・キース鉱山から約50キロメートル、レインスター選鉱場から約100キロメートルと近い。高品位のニッケル硫化鉱床や、既存のマウント・キース鉱体、ヤカビンディー鉱体に似た高品質の資源が賦存する。

ニッケル・ウェスト部門は西オーストラリア州に鉱山、選鉱場、製錬所、精製所を擁し、高品質なニッケル製品に仕上げて主に海外へ販売する。足元では、リチウムイオン電池の正極材に使う、硫酸ニッケルの供給開始に取り組む。

BHPは一時、ニッケルを非中核資産に位置づけて同部門の売却を検討した。昨今の電池産業の盛り上がりを受けて、昨年、中核事業にあらためて引き直した。

ノリルスクは今回の資産売却で豪州から撤退する。ロシアのティア1資産群に一層集中する。

紙齢20000号 2020
PROGRESS100
産業新聞

きょうの鉄
3面 鋼管鋳込み銅ステーブ受注
日鉄エンジニアリングは、伯ウジミナスのイパチンガ製鉄所第3高炉向けに銅ステーブ一式240枚を受注したと発表した。

きょうの紙面
5面 商品群に2機種追加 宮崎エンジニアリング
9面 非鉄10種生産堅調 中国5月
11面 19年度連続減3.7兆円 電子部品出荷

伯ヴァーレ

加ニッケル鉱山再開へ

8月上旬フル生産目標

伯資源大手ヴァーレは18日、加ボイジーズベイ・ニッケル鉱山のケア・アンド・メンテナンス(最低限の維持補修のみ行う状態)を解くと発表した。7月上旬の生産再開、8月上旬のフル生産到達を目指す。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、3月半ばからの約3カ月間、ケア・アンド・メンテナンス下に置いた。

ボイジーズベイは同社の主要ニッケル鉱山の一つで、銅やコバルトも多く副産する。生産再開と並行して、坑内掘り開発プロジェクトも再開する。現在操業中の露天掘りがまもなく終了するため、坑内掘りに移行し延命する計画が進む。

世界保健機関の規定に則って加ニューファンドランド、ラブラドールの民間試験機関と提携し、ボイジーズベイに入構する全従業員にPCR検査を行う。これまで同鉱山で感染者は見つかっていないが、検査態勢を強化し早期発見や追跡、拡大予防を図る。

ヴァーレは4月中旬、新型コロナの影響などを踏まえ2020年のニッケル生産見通しを20万−21万トンから18万−19万5000トンに引き下げた。

会長に橋本氏

非鉄全連

非鉄金属リサイクル全国連合会は12日に書面決議による通常総会を開催し、新会長に関西非鉄リサイクル協同組合の橋本健一郎理事長(橋本アルミ社長)が就任した。任期は2年。副会長は前会長の六車龍三・橋本金属商事社長、竹中伸行・竹中製作所社長、田子政夫・田子金属社長の3氏が務める。

日刊産業新聞ネット版
http://www.japanmetal.com

亜鉛建値

6000円上げ 27万4000円

三井金属は19日、6月積み亜鉛建値をトン6000円引き上げ27万4000円に改定したと発表した。海外相場高を反映。月内推定平均は27万2200円となった。

指標となる現地18日のロンドン金属取引所(LME)の亜鉛現物相場はセツルメントベースでトン2037ドル。前回建値改定時の指標より33・5ドル高い。為替TTSも19日は1ドル=107・95円。前回改定時から0・26円の円安ドル高進行となった。

亜鉛建値推移
(1000円/トン)

2020年		月間平均
3月10日	250	254.300
16日	262	260.600
19日	256	258.300
26日	262	259.400
4月1日	262	
6日	256	256.900
10日	259	258.900
17日	262	260.100
23日	259	259.500
5月7日	262	
12日	271	269.400
15日	265	265.500
20日	271	268.400
25日	268	267.500
6月1日	268	
4日	274	273.200
9日	277	275.400
12日	268	270.000
19日	274	272.200

新型コロナ対策支援宣言に参画

フジクラ

フジクラは19日、「知的財産に関する新型コロナウイルス感染症対策支援宣言」に参画したと発表した。新型コロナウイルス感染症のまん延終結を目的とする行為に対し、保有する特許権や実用新案権、意匠権の権利行使を一定期間行わず一切の対価や補償を求めない。

5月の販売高 前年比16%増

日本製半導体製造装置

日本半導体製造装置協会は18日、2020年5月の日本製半導体製造装置販売高(輸出含む)の速報値を発表し、前月比では1・3%減となったが前年同月比では16・1%増となり販売高は2054億5900万円となった。新型コロナの影響で前月から減速したものの、5G需要などもあり前年同月では堅調さを見せた。5月の日本製FPD製造装置の販売高(3カ月移動平均)は298億1800万円となった。前月比で1・5%増となったが、前年同月比では26・6%減となった。

次世代複合材開発4件採択

NEDO

新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)は19日、次世代の複合材料と成形技術開発事業で宇部興産の「超高性能SiC繊維の品質安定性向上に向けた開発」など4テーマを採択したと発表した。航空機の燃費改善や環境適合性向上、安全性向上などに資する複合材料技術を開発する。このほかの採択テーマは、IHIとシキボウの「1400度級のCMC材料の実用化研究開発」、川崎重工業の「高レート・低コスト生産可能なCMC材料およびプロセス開発」、東北大学の「複合材時代の理想機体構造を実現する機体設計技術の開発」。

信用 信頼 実績 価格 ステンレス・特殊金属原料
伊藤金属商事株式会社
TEL (0567) 66-5133・5136
FAX (0567) 66-5173
www.itou-kinzoku-shoji.jp
本社工場／〒498-0066 愛知県弥富市楠一丁目52番5
飛島工場／愛知県海部郡飛島村元起四丁目92番地
木曽岬工場／三重県桑名郡木曽岬町大字源緑輪中1183-1
お問合せ info@itou-kinzoku-shoji.jp

「捨てる」を「活かす」に変える力。

●非鉄金属リサイクル ●総合解体事業
●金属リサイクル ●産業廃棄物処理事業
●被覆電線リサイクル ●一般貨物自動車運送事業
●貴金属およびプリント基盤リサイクル
まずはお気軽にご相談ください。
株式会社 ウエスギ
〒510-8002 三重県四日市市天力須賀新町1-32
TEL.059-365-6800 FAX.059-363-2055
http://www.uesugi-p.co.jp